



ミズクラゲ・アカクラゲの大量出現

～ 春から島根県沿岸でミズクラゲやアカクラゲが大量出現して漁業者を困らせています。～

今年4月頃からミズクラゲ、アカクラゲと呼ばれる2種類のクラゲが島根県各地の沿岸で大量に出現しています。クラゲの出現は今年4月から始まり、6月上旬現在ではアカクラゲは減っていますが、ミズクラゲは相変わらず大発生しており、定置網などに1日数十トン単位で入網しています。これらのクラゲは作業の邪魔になるだけで利用価値もなく、漁業者を困らせています。漁業者からの聞き取りなどを総合すると、島根県においてミズクラゲやアカクラゲがこれほど大規模に出現したことはこれまでないものと思われる。



定置網に大量に入網したミズクラゲ(浜田大敷)

クラゲと言えば昨年も大量に来遊して漁業に大きな被害をもたらしたエチゼンクラゲが思い出されますが、現在発生しているミズクラゲ、アカクラゲはこれとは種類が異なります。中国沿岸などから来遊してくるエチゼンクラゲと異なり、ミズクラゲは地先の沿岸で繁殖・成長しているものが主体と思われ、沖合域には少ないようです。

また、島根県だけでなく山口県・鳥取県などの日本海側各県でも現在これらのクラゲの大発生が報告されています。大発生の原因については、水温条件や餌のプランクトン増加などが考えられますが、はっきりしたことは分かっていません。



漁獲物と一緒に水揚げされたミズクラゲ

今年春からの島根県のクラゲの発生状況

- 4月上旬：島根県各地の沿岸でアカクラゲ・ミズクラゲの浮遊が確認される。
- 4月下旬：浜田のまき網にミズクラゲが入網。出雲・石見部の定置網にアカクラゲ・ミズクラゲが入網し始める。
- 5月：出雲・石見・隠岐の各地の定置網にミズクラゲ・アカクラゲの入網が続く。
- 6月上旬：アカクラゲは減ったがミズクラゲは相変わらず大量入網が続く(浜田の定置網で1日20トン以上)。

ミズクラゲ・アカクラゲについて

ミズクラゲは傘径10～30cmの白いお椀型のクラゲで毒はほとんどありません。毎年春から夏に成体が多く見られます。アカクラゲは傘径10～20cm程度で傘に赤い縞模様があるクラゲで、1～2mの長い触手があり強い刺胞毒を持っています。両種とも島根県の沿岸に普通に見られ、食用としての価値はありません。どちらも海中のプランクトンを餌にして成長します。

ミズクラゲは瀬戸内海などで大発生して定置網に入ったり、発電所の取水口に詰まるなどの害を及ぼすことがあります。島根県沿岸でも最近では平成9年、平成11年、平成12年にかなりの出現が見られましたが、今年のような大量出現はこれまでにないものと思われます。

漁業におよぼす被害

エチゼンクラゲほどではありませんが、大量のクラゲが入網することで漁労作業の妨げになり、作業が遅れるなどの被害が出ています。アカクラゲは強い刺胞毒があるため漁業者が刺されたり、一緒に入網した漁獲物が傷んで商品価値が下がるなどの被害があります。



ミズクラゲ



アカクラゲ(江津、底建網に入網したもの)

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp